

静岡県立静岡聴覚特別支援学校（静岡聾学校）



# 学校だより

令和3年度第9号（令和3年7月8日発行）

雨の日が続いています。今年の梅雨は長いですね。熱海の豪雨災害の報道は心が痛みます。命を落とされた方の御冥福を心からお祈りします。

さて、雨といえばカエルを連想しますが、皆さんは運動場の南東にいる「夢と希望のカエル」をご存じでしょうか。今から21年前、西暦2000年を記念して、当時のPTAが子どもたちのタイムカプセルを埋めた記念碑です。そのカプセルも本校100周年(平成29年)の時に開封されました。新たな時代への希望と、子どもたちの無事を祈る想いと大きな愛が込められたカエルは、今はその役目を終えてひっそりと佇んでいます。



西暦2000年といえば、かつて、コンピューターの世界で2000年問題というのが社会問題になったことがありました。2000年を越えると、あらゆる場所でコンピューターの誤作動が起こって全世界の社会機能が麻痺すると予測されたのです。コンピューターで制御されている交通機関は電車も航空機も止まってしまい、銀行は営業不能になり、電気も水道も供給できなくなる。病院も治療ができなくなり、核ミサイルが誤発射されるというウワサまで流れて大騒ぎになりました。そのため、コンピューターを用いているすべての会社や機関は技術者を総動員してプログラムの点検をしました。更に、交通機関は午前0時の前にすべて運行を停止し、それでもなお、万が一に備えて多くの会社、機関、役所、警察などでは、大晦日から徹夜で万一の事態に備えたのです。そのためか、大事は起こらずに新年を迎えることができました。

当時は、何事もなく平和で平穏で平凡なことが、いかに多くの人たちの力によって支えられていたかを、深く考えさせられました。

今また、コロナ収束後に「何気ない普通の生活がいかに幸せか」を強く強く実感するためにも、今の辛抱や規制を不満ではなく良き経験として、しっかりと記憶に焼き付けながら過ごしたいものです。やまない雨はありません。

事務長 土戸美樹